

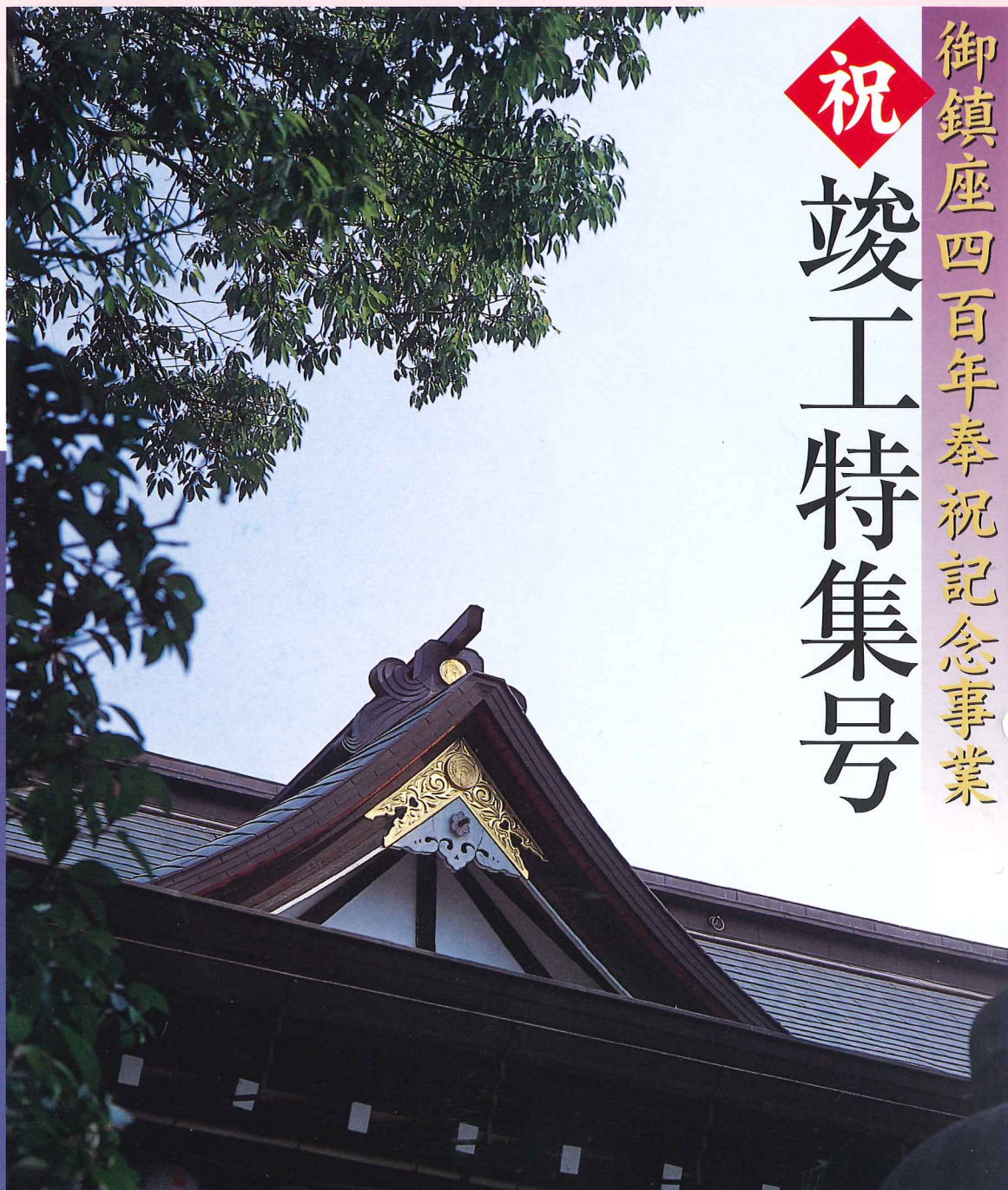


いなほ

稲積神社社報

第15号

平成13年4月7日発行



祝 竣工特集号

御鎮座四百年奉祝記念事業



竣工奉告祭挨拶

宮司 根津泰昇

平成十三年新年度を迎えて大変ご多忙の中、当社御鎮座四百年奉祝記念事業の竣工奉告祭に崇敬者を始め、ご神縁をいただいております関係者各位にご参集賜わり厚く御礼申し上げます。

思い起せば、当奉祝事業は、先代の宮司根津成雄と先々代責任役員大澤伊三郎県総代会長が実行委員長を務めて、「平成の御大典・御鎮座四百年奉祝記念事業」と題して、平成三年に結成されました。事業概要として、拝殿屋根替工事、参集殿修復工事、社務所改築工事、潔斎所新設工事を計画いたしました。第一期工事として、参集殿床張替工事、社務所増築工事、潔斎所新設工事に着手いたしました。竣工の運びとなりました。第二期工事の準備段階で宮司又実行委員長と相次ぎ他界してしまい、当社関係者はもとより、実行委員、又崇敬者の方々にも失望の感が漂い、自然体の中で

奉祝記念事業も中止せざるをえない状況に立たされた訳でございます。

この状況下の平成七年七月に私は宮司に就任いたしました。先代宮司が戦災で荒廃した稲積神社の再建に全力を尽くしていた姿を目の当りにみておりました。また奉祝事業も志し半ばでありましたので、この奉祝事業を何んとか再興し、宮司をも継承してゆきたいと念じておりました。

当時責任役員をお務めいただいた小尾和男様と塩島喜代則総代様にご相談申し上げたところ「崇敬者の方々を力と力を合せ再興すべきだ」との力強いお言葉を頂き、さっそく総代会を始め、外郭五団体、崇敬者代表の方々との協議の上各会よりご理解を賜わりましたので奉祝事業の着手に決意を新たにいたしましたのでございます。

平成九年四月に奉祝実行委員会が、崇敬会々長石坂義男様、名譽総代小林宏武様、責任役員小尾和男様、荻野幹雄様を最高顧問に、奉祝実行委員長に責任役員塩島喜代則様にご就任頂き、二十一名の委員、事務局二名で組織が再編成され、再興に向けて活動が再開されました。

多くの皆様のご理解に感謝申し上げます。稲積大神様のご神徳を信じつつ、又亡き宮司根津成雄大人命のご加護を願わずにはいられない心境でもありました。

委員会も始動し、奉祝事業の取り組み方、募財活動の方法、事業概要に意見交換が交わされました。ご案内の通り、事業概要は、幣殿改築工事、拝殿屋根銅板葺替工事、表参道、南参道、北参道修復工事、参集殿修復工事、玉垣設置工事、境内整備工事を主要工事として進めてまいりました。

奉祝事業の進行に伴い次の事業が追加されました。北側瑞垣屏工事、金刀比羅神社、金城稲荷、稲荷社参道工事、猿田彦社移設工事、交通安全車祓所新設工事、戦後復興出稼すにいた、熊野神社、甲子社、瘡子社の御造営工事、お水取専用の井戸掘削工事、御神田御造営工事です。境内が

一段とご神威高まる神域になりました。私は、宮司就任より六年間又奉祝事業を通して『生氣興隆』のご神徳を深く感じとりました。人の命は、神様からお授りになり誕生してきます。そして親に又身近な人々によって幼年期、青少年期と育てられ成長してゆきます。成長した大人の心に宿る魂、生命を『生氣』と言います。この『生氣』をより一層榮んに育むことが『生氣興隆』です。

「生氣」を發展させるも、衰弱させるのも個人の心の持ち方にあります。何にかに挑戦しようとしたら、まず自分でこつこつと行動をおこしてみることです。一度や二度のチャレンジで思うがままに運んだら幸運でしょう。「世は苦娑婆」と言われるように大方は不運、苦労が多いものです。そんな時挫折すると「生氣」の衰弱です。開運を呼び込むには、自分に何が必要かを求める事でしよう。求める精神は、神を信じ、自分を信じ、努力を惜まぬ心であります。この基本精神を貫く事によって、神々から『生氣興隆』のご加護が授かる訳です。『生氣興隆』のご加護に接しられ

たならば、お与え下さった神々に感謝の誠を表わす姿勢もまた大切な姿であります。我国には、「神を敬い、祖先を尊ぶ」と言う「敬神崇祖」の信仰がございます。この信仰を中心に生活を営むことにより神々様より『生氣興隆』のご神徳、ご守護をお授りになることでしょう。

奉祝記念事業も多くの皆様の『生氣』が稲積大神様と接し、強いご神縁に結ばれたことよって竣工奉告祭を迎えられた事と存じます。ここに改めて大神様に感謝申し上げますと共にご神縁をいただいた崇敬者各位に謹んで御礼を申し上げます。

今後は、宮司を始め職員一同新たな神明奉仕の精神を培いつつ。又稲積大神様とのご神縁をお授りになる崇敬者各位に『生氣興隆』のご神徳がお授りになられるように、稲積大神様がお鎮りになるこの神域をより一層清浄にお護りしてまいり所存でございます。

今後共にお力添賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが崇敬者各位を始めご参列の皆様方の弥栄えをご祈念申し上げます。挨拶いたします。



残心

奉祝事業実行委員長
塩島 喜代則

神社から原稿を依頼された時、さて何からと迷いました。勿論奉祝事業の事は書かなければ・・・その前に私の事を少し書いてみようと思います。

私の家は神社とは目と鼻の先50mも離れていません。曾祖父が三珠町の大家から現在の太田町に根を下ろして私で

四代目、子供の頃から稲積神社、いや正ノ木さんは本当に身近な神社でした。小学生の頃ワンパク達と遊ぶのは勿論

遊亀公園、それも神社の境内は絶好の遊び場所、五月の祭典には、サーカス、犬芝居、お化け屋敷、サーカス小屋から

の夜空に響くトランペットの音色は小学生の私にも妙に物悲しく感ぜられました。

終戦後は一蓮寺の境内にストリップ小屋迄・・・方丈がストリップとは知らず境内を貸して大困り、楽しい思い出が今もはっきり記憶に残りま

す。空襲で建物は跡形もなく焼け、先代の宮司も随分復興

に苦勞なさいました。

私の父も総代でした。宮司を先頭に総代・崇敬者全員で苦勞した甲斐があり、現在の拜殿・幣殿、そして本殿。本殿は日展にも彫刻で何度も入選された樋川さん「故人」が建てました。

参集殿は予定にはなかったのですが予想以上に浄財が集まり、建てられました。

鎮座四百年の奉祝事業として境内を整備したい、と云う話は以前より宮司からありました。

ようやく平成十年本決りとなり、募金金額一億三千万、期間は三年間、実行委員長、私と云う事になり、スタート

致しました。お引き受けした時、ふと思いました。私は何年総代をやっているのだろう。神社のため貢献した事があつた

だろうか・・・答えは「ノー」これと云った事はなにもしていない。私の様な人間で

よいのか・・・浄財ははたして集まるのか・・・随分悩み

ました。しかしお引き受けした以上、私なりに努力してみよう、覚悟を決めました。

折から日本経済は不況に突入、あまりよいスタートとは云えませんでした。

しかし宮司、総代、多くの崇敬者の熱心な努力により、先ず拜殿の大屋根の全面葺き替え、幣殿の新築、特に北参道には力を入れ、塀の新設、参道の整備、樹木の植替え、伐採、境内お水取りのための井戸の掘削、又正面にあつた大燈籠十二基を北参道に移し、常夜燈も六基並べました。参集殿も細かく手を加え、玉垣も浄財をいただいた方々の名前を刻み、境内に廻らせました。十分とは申しませんが、見違える様な立派な神社になったと自負して居ります。

私には一つ心残りがあります。それは先代の宮司にも是非見ていたたたかた。塩島さん、よくここ迄やってくれました。ありがとう」そして一緒に祝杯を・・・うまい酒をのみたかつた。残念です。

宮司も経験を積み、立派な堂々たる人間に生長してくれました。

私も七十才を過ぎ、これから何年ご奉仕出来るかわかりませんが、宮司を先頭に総代、崇敬者の皆様と力を合わせ、大勢の方々からも愛される立派な神社を目指して、努力したいと思ひます。

私は毎年正月どんな事でもよいのですが、今年はこちらを守り、実行しよう。私なりに誓をたてます。正月に或る人物の記事を読み感銘しました。

よしこれだ・・・それは、「残心」と云う言葉です。早速（広辞苑）を調べてみました。

（心のこり、みれん）剣道で撃突した後、敵の反撃に備える心の構え。

弓道で矢を射放した後の反応にこたえる構え。

小笠原流礼法では、相手への敬意や感謝の意を表現し伝える。これを「残心」と呼ぶそうです。

幕末の大老で茶人だった井伊直弼は、茶事が済んだあと、客の姿が見えなくなるまで見送り、さらにその後、客を偲んで一人茶を点て、静に飲んだそうです。

残心です。

「客人が帰った後、すぐに戸締まりをしてはいけない。それまで楽しんでても、その音が聞こえると客は厄介払いされ

たようなイヤな気分になるだろうから」。残心とは物事が終わった後にも心配りをする心の余裕のことだと思ひます。

もし日本の多くの経営者に残心の心構えがあれば、バブル崩壊の悲劇も、こんなに大きくなりません。コンピューター時代になって、これらの大切さが、ますます浮き彫りになってくるような気がします。

大変リツパそうな事を申し上げました。

皆様のご健勝、神社の益々の御発展をご祈念申し上げ筆を置きます。



記念事業紹介

拝殿銅葺屋根替え



表・南・北参道整備



南参道

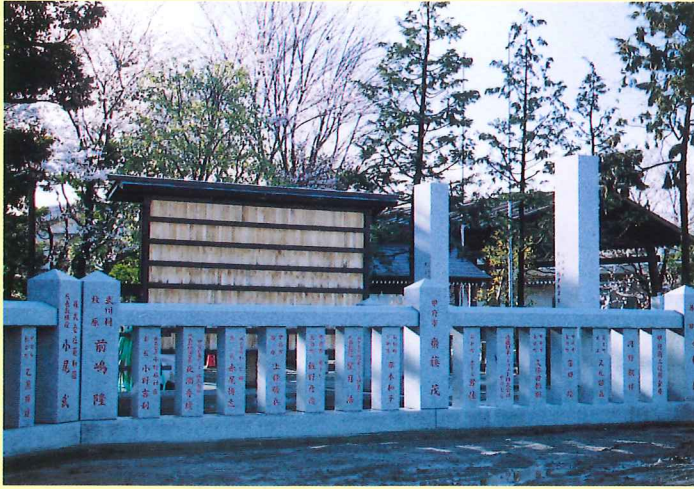


北参道

幣殿改築



境内整備



参集殿トイレ改修

天満天神社改修



交通安全自動車

おはらい所新設





境内社復興

三社

甲熊瘡
子野子
社社社

御神田(境内整備)



職場体験学習

一昨年に続き山梨大学附属中学校の総合的な学習活動の一環としての「職場体験活動」に今回は三名の男子生徒が体験活動を行なった。

旧臘一日、まだ夜もあけやらぬ極寒の朝六時引率の先生と一緒に月始祭の境内清掃より参加、どんな事が生徒達の心に残ったか感想文をご紹介します。

稲積神社に来て

久留 高史

僕は、この稲積神社に来て一番最初に思ったことは、大きいんだなあと言うことです。僕がなんで大きいんだなあと思ったかと言うと、僕の家の近くにも神社はあるけど、稲積神社の半分ぐらいいしかなくて、しかも、いつも誰もいないような感じだからです。この稲積神社は、よくお客さんが来ますけど、その神社には全然人が来ません。稲積神社では、毎月の一日の日に月始祭と言うその月の

健康などをお祈りする祭があります。僕たちは、今日その月始祭に参加させてもらいました。僕は、なにをしていいかわからず、ずっときんちようしてしまいました。僕たちの他に総代さんと言う人たちがいて、僕はますますきんちようしてしまいました。本当になにをしていいかわかりませんでした。月始祭では、終わった時には、いい体験をしたなあと思いました。他にも、稲積神社では雅楽と言う日本で一番古い音楽

やいろいろな礼儀などを教えていただきました。一番つらかったのは、そうじでした。今日は、一日僕たちにいろいろなことを教えてくれてありがとうございました。

体験を終えて

駒田 諒

僕は体験学習をするのはあまり気がすまなかった。しかし実際神社に来てみると自分が思ったより全然ちがう世界だった。

まず朝起きてから神社に来てすぐにそうじをしました。神社には枯れ葉の多さにとてもおどろきました。そうじを

始めるとなぜか、はいてもはいても葉がなくならなかったのでもんだん嫌になつてきました。

そしてそうじが終わり朝食を食べた後に月始祭が始まりました。月始祭は月の一番始めの日にする祭りです。月始祭では、みんなで詞を歌いました。月始祭では米をまつたりしました。そしてまつた米をお昼に食べました。

そして僕が一番印象に残ったのは、雅楽の演奏です。雅楽の楽器はともい音を出してました。聞いていたら少しねむくなりました。今度また見てみたいと思いました。体験学習を終えてみたら、稲積神社に行くてよかったです。今後生かせるようにがんばりたいと思います。

祭典行事歴

(五月〜十一月)

毎月 一日 月始祭

三日 月次祭

十五日 神恩感謝祭

古神札

焚上げ祭

五月二日 献木祭

正ノ木大祭前夜祭

三日 正ノ木例大祭

四日 大祭特別祈願祭

五日 二ノ祭

三ノ祭

六月 正ノ木大祭終了祭

お田植祭

八月 三十日 夏越 大祓

富士ヶ嶺開拓祭

十月一日 金刀比羅祭

十一月 二十五日〜二十七日

甲府伊勢講千社まいるの旅

紅葉の京都湯の花温泉と

伊勢神宮参拝

毎月一日、三日、十五日には

神社にお参り

しましょう!!

御日供献饌講について

当神社では毎朝大神様に神饌(米・酒・乾物・野菜・果物・塩・水)をお供えして祭典を奉仕しております。

このおまつりを「御日供祭」と称し、御日供祭にお供えする神饌奉献者の集まりを御日供献饌講と申します。

御日供献饌講は、毎年、一月一日より十二月三十一日迄を区切りとして、毎朝講員の皆様の繁栄をお祈り申し上げ一年間お護りいたたく御礼として順次大神様に神饌をお供えして参ります。

又、御奉献いただいた講員の方々に、年一度お集り願って大神様に益々の御加護を祈年すべく御日供献饌講々社祭を斉行致します。

この御日供献饌講の初穂料は一年間三千元です。

御希望の方は御参拝の折に受付へお申し出下さい。

祝祭日には

国旗を上げましょう!!

神社社務所でも頒布しております。

国旗セツト

(国旗、竿、金色冠頭)
 (受付金具、収納袋付)
 頒布価格 一、五〇〇円



塩島責任役員 神社庁規程表彰受賞

去る十月十九日、山梨県民文化ホールに於いて、平成十二年度の神社関係者大会が開催された。神社本庁、神宮より御来賓をお迎えし、県内神職、総代等約七百名が参加した。

午後一時、第一部の神宮大馬、厩頒布始祭が東山梨支部と山梨県神道雅楽会の御奉仕により厳粛に斉行された。

第二部式典は古屋眞孝庁長が式辞を述べ、池田虎雄総代会長が挨拶を行った後各種表彰が行われた。

神社庁規程表彰で当神社責任役員塩島喜代則氏が受賞された。この神社規程表彰は永年の神社の護持発展に尽力された事は勿論であるが、甲府支部の総代会副会長として斯会発展の為に尽力された事に対するもので塩島責任役員の



受賞に心よりお祝いを申し上げます。
又被表彰者を代表して塩島氏が謝辞を述べられた。

甲府伊勢講のご案内

紅葉の京都湯の花温泉と伊勢神宮参拝

伏見稲荷大社参拝・東福寺・保津川下り・南禅寺・伊勢神宮新穀感謝祭二泊三日の旅
真つ赤に染まった紅葉を追って京都嵯峨野へ向い、その

日程

11月25日(日)	6:00 甲府各地	中央高速~名神高速	伏見稲荷大社(正式参拝~昼食)	17:00 湯の花温泉(泊)
11月26日(月)	8:30 湯の花温泉	亀岡	保津川下り	嵐山(散策)
11月27日(火)	8:00 鳥羽	伊勢 皇大神宮(内宮)	豊受大神宮(外宮) 正式参拝	19:00 甲府各地

○宿泊予定ホテル：湯の花温泉 溪山閣/鳥羽 戸田家
○詳しい案内(最終行程、乗車場所)は11月18日以降に担当世話人より連絡します。

後伊勢神宮の新穀感謝祭にお誘いするのはこびとなりました多数ご参加戴けますようご案内申し上げます。

○ご旅行代金

お一人 五八、〇〇〇円

○募集人員 一六〇名

★お申し込みお問い合わせ先

伊勢講世話人 神社社務所

平成十三年十一月二十五日(日)

〜二十七日(火) 二泊三日

夏越大祓式の 御案内

大祓は六月三十日と十二月三十一日の年二回、半年毎に全国の神社で執り行なわれ、私たちが知らず知らずのうちに犯した罪汚れを祓い清める神事です。

特に六月の祓は「夏越の祓する人は千歳の命延ぶ」と謳われているようにちの輪をくぐり邪気を祓い暑い夏を元気で過ごせるようお願いが込められています。

当神社でも六月三十日に斎行致しますので是非御家族お揃いで御参拝下さいませよう御案内申し上げます。

詳しくは社務所までお問い合わせ下さい。

第三十五回針供養祭

山梨県和服裁縫組合、日本和裁士会山梨県支部主催による針供養祭が去る二月八日、こと始めの日に針供養塔の前で斎行された。



《会員募集中》

- 崇敬青年会
- ソフトボール部
- 稲積睦会
- 雅楽会
- 敬神婦人会

当神社各種団体では只今会員を募集しています。お問い合わせは社務所までおねがいします。

編集後記

先代根津成雄宮司の念願であつた御鎮座四百年奉祝の事業が多くの崇敬者の方々の御力により達成できた事は望外のよるこびであり感謝のことばしかありません。

先代宮司もよろこんでいることと思います。

まだまだ明るさの見出せない状況の中ではありますが、これを期に崇敬者各位のいよの弥栄、御繁栄を心より御祈念申し上げます。

命継ぐ食もの衣もの住むいへも
稲荷の神の恵みなりけり

稲積神社

甲府市太田町公園内鎮座
電話 (055) 233-5573
FAX (055) 226-0787